

IEA石油市場レポートの概要（2017年11月14日公表）  
（代表部仮訳のため、正確にはIEAのホームページを参照）

1. 高い油価と比較的温暖な初冬の気温を踏まえ、石油需要予測を下方修正する。2017年と2018年の両年の需要の伸びが10万バレル/日ずつ下方修正されることにより、2017年の需要は150万バレル/日伸びて（1.6%増）9,770万バレル/日に、2018年の需要は130万バレル/日伸びて（1.3%増）9,890万バレル/日となるだろう。
2. 10月の世界の石油供給は、OPEC非加盟国の生産増により10万バレル/日増加し、9,750万バレル/日となった（OPEC加盟国からの供給が2016年第4四半期の高い水準から大きく下がったことにより、1年前より47万バレル/日低い）。OPEC非加盟国の供給は、米国の増産にリードされ、2017年に70万バレル/日、2018年に140万バレル/日、それぞれ増加することが見込まれる。
3. 10月のOPEC加盟国の原油生産は、主にアルジェリア、イラク、ナイジェリアの供給減により、8万バレル/日減少した。5月以来最低水準の3,253万バレル/日は、1年前の記録的高水準から83万バレル/日も低くなっている。10月の減産協定の遵守率は96%で、年初来では87%となっている。
4. 9月のOECD加盟国の石油民間在庫は、ハリケーン・ハーヴィーの影響で4,000万バレル低下し、過去2年間で初めて30億バレルを下回った。世界的な在庫は2017年第3四半期に6,300万バレル減少した（四半期ベースでの減少は2014年以来二回目）。10月の在庫は、米国とおそらく中国で減少し、他の地域では上昇するだろう。
5. 10月の原油指標価格は、9月から1～2ドル/バレル上昇し、11月上旬には中東での緊張を受けて更に上昇した。石油製品市場は、米国の精製業者が高い処理水準に回帰したことを受けて、原油と比較して軟調となった。
6. 2017年の第4四半期の石油精製量の予測は、8,080万バレル/日にわずかに下方修正されるが、季節的に需要が弱まるため精製品在庫は増加することが見込まれる。比較的堅調な精製活動水準は、来年1、2月まで持続し、前年比で110万バレル/日増加すると見込まれる。
7. 2017年第4四半期と2018年第1四半期において、世界的に原油の供給が需要を上回ると分析している。精製品の在庫も増加すると予測されるが、主な石油在庫の取り崩しは季節的なLPG需要の増加によるものと見込まれる。